

東海第二発電所に関する意見聴取会

平成24年10月25日

東 海 村 議 会

(C)

(C)

開会 午後18時00分

○豊島寛一 委員長 それでは、皆さん、大変お待たせいたしました。こんばんは。

本日はどうも、お疲れさまでございます。

聴取会を開催させていただきます。大勢の皆さん方にご参加いただきましてありがとうございます。

聴取会議に入る前にですね。

[「全然聞こえない」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 入る前に、諸注意事項を副委員長の武部のほうから申し上げますので、よろしくお願ひいたします。

○武部慎一 副委員長 こんばんは。

きょう、お集まりいただきまして、会場での注意事項について……。

[「聞こえません」「ちょっとお待ちください、ボリューム」と呼ぶ者あり]

○武部慎一 副委員長 じゃ、会場での注意事項についてお知らせいたします。

写真撮影などに関する注意事項について、意見聴取会は個人の意見を言う場であり、マスコミ等による映像、写真撮影、携帯電話、アイホン等による動画の撮影などは頭振りとして、この後、委員長の挨拶がありますが、その挨拶までは撮影していただきます。その後は、すべて禁止としたいと思います。あと、携帯電話は会の進行の妨げになりますのでマナーモードまたは電源スイッチをお切りください。

また、会議の秩序を乱すおそれのある行為をした場合、ルールが守れない場合には中止することもありますので、その分、ご協力をお願いいたします。

この意見聴取会は、東海村原子力問題調査特別委員会が行うもので、議会事務局とすべて議員によって運営しています。したがって、会場整備や今度、四つ角にマイクを持って意見を聞くという場合の、マイクを持って会場を走るのも議員が行います。ということで、具合がなれていらない点もありますけれども、その点、ご了承いただきたいと思います。

また、会場で具合がすぐれない方などいましたら、事務局に連絡ください。

また、2階のこの奥のほうですけれども、売店の付近にソファーなどがありますので、お休みいただけだると思います。

また、会場で出入り口の注意事項があります。皆様がお入りになりました正面の玄関、出

入り口をご利用いただければと思います。正面の出入り口以外は防犯のためのセキュリティーガがかかるており、保安会社が駆けつけてくることになりますので、正面の自動ドアの出入り口のみお使いいただけるという形になります。

また、非常時についてですけれども、昨日から大きな地震が続いますが、非常時には事務局の指示に従って冷静に1階ホールに階段でおりていただき、屋外に退避するようお願いいたします。

また、意見聴取会の終了後は、いす等の後片づけ等が、やはりこれも議員と執行部/議会事務局とで行います。したがいまして、できるだけ時間も限られていますので、できるだけスムーズに運ぶように協力いただきたいと思います。

あと、委員長の挨拶の後、撮影機器などの電源のスイッチをお切りいただきますので、委員長の、この後、挨拶をしていただきたいと思います。

あと、何か質問あつたら受けますけれども、なければ委員長の挨拶に入ります。

○豊島寛一 委員長 それでは、改めまして、こんばんは。

聴取会開始の前に一言ご挨拶申し上げます。

本委員会では、平成24年3月に東海第二発電所の廃炉、再稼働中止などの請願3件と安全性向上に関する請願1件の計4件の請願の付託を受け、これまで7回にわたり審議を進めてまいりましたところであります。

これまで東海村民や関係者の方々からご意見を伺ってまいりましたが、さらに広範囲に村に在住する方々、また、村で働いている多くの職業の方々から、請願に関して、村民、個人としてのご意見を聞かせていただく場として意見聴取会を設けさせていただきました。

今夜でございますが、25日の木曜日、18時から、もう1回が10月28日日曜日、13時30分から2回の日程で意見聴取会を開催する運びとなりましたので、東海村村民、そして、東海村に勤務する勤労者の方々のご意見も、率直な、かつ真剣なご意見をお聞かせいただければと考えております。

意見聴取会につきましては、中立公正を期して運営してまいりたいと考えております。いただきましたご意見につきましては、今後の請願審査の中で参考にしてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

続いて、武部副委員長のほうからであります。

○武部慎一 副委員長 委員長の挨拶が過ぎましたので、ここでマスコミ関係者の方々におかれましては、撮影機器など電源のスイッチをお切りいただくようにお願いいたします。また、

携帯の場合はマナーモードまたは電源のスイッチをお切りいただきたいと思います。

では、委員のほうからマイクを持って、それぞれこの部屋の4つの角、そして、一番前の席にマイクを、5台あります。意見をいただく場合は、このマイクを持って委員がそれぞれ走りますので、それぞれお手を挙げていただければと思います。では、マイクの方々、移動をお願いいたします。

○豊島寛一 委員長 それでは、私のほうから今までの概要説明を簡潔に述べさせてもらいたいと思います。

それでは、委員会の経過について、本委員会では平成24年3月に議会で請願を受けてから、これまで7回にわたり福島原子力災害にかかる請願審査等を進めてまいったところであります。期日等は割愛をさせていただきますが、中でも4月9日、4月23日、5月16日、6月1日、7月10日、7月27日、9月20日ということですが、この請願に関しましては、皆さんご承知のように廃炉または再稼働中止並びに施設の安全性向上に向けての4点の請願でございます。内容につきましては、割愛をさせていただきたいと思います。

続いて、請願についてでございますが、参考資料をお読みになっている方もおられると思ひますけれども、請願について4件でございます。

請願の第24-1号でございますが、件名等をお知らせいたします。東海第2原子力発電所の再稼働を認めず、廃炉を求める意見書提出を求める請願書でございます。請願第24-3号は、日本原子力発電東海第2原発の再稼働中止を求める意見書採択についての請願でございます。請願第24-4号は、「東海第2原発の廃炉を求める意見書」採択を求める請願書でございます。もう1件は、請願第24-5号 東海第二発電所並びに原子力施設の安全施設の安全性向上に関する意見書提出を求める請願書でございます。簡潔に申し上げました。

引き続きまして、副委員長のほうから、進め方をお願いします。

○武部慎一 副委員長 意見聴取会における発言に当たっての、先ほどから注意事項を説明していますけれども、発言に当たっての注意事項というのを説明したいと思います。

発言時間ですが、1人3分程度を予定しています。2分40秒程度で、そちらの予告板と言うのを出します。その後、速やかに意見などをまとめていただいて、次の方につないでいっていただければと思います。あまり長くなされると、発言される人数がやはり制限されてきますので、そのところはご協力いただければと思います。学会等でいろいろやるときに話がとまらない人がおります。そういう場合には、最悪は、この音（リン）が出ますので、そのときには速やかにまとめていただければと思います。ただ、3分ですので、やはり全部を

まとめるのは難しいかと思しますので、それで足りないときには後ろにまた意見を書く場所が置いてあります。それとホームページは10月31まで、今月中、ホームページで意見を募集しておりますので、そちらにコメントを発信していただければと思っています。よろしくお願ひします。

あと、発言者の人数なんですが、先ほど言ったように8時半まで、時間の許す限り意見を聞くというような形にしたいと思います。目標の人数を決めて、なかなか時間どおりにはいかないと思いますので、とにかく8時半まで時間のある限り意見を聞くという形にしたいと思います。

また、発言に当たっての注意事項ですが、制限時間を守ってできるだけ発言をお願いします。そして、発言の前にはお名前と居住区、居住区は白方区とか白方、東海、その他そういう簡単な住所の説明で結構です。できれば原子力関係とか職業とか、何かお話ししていただければと思います。

また、特定の個人や団体を誹謗中傷するようなもの、また営利を目的にしているもの、利己的な内容のもの等の発言については発言を中止していただく場合がございます。協力をお願いいたします。

また、発言の進め方ですけれども、やはり一遍に手を挙げていただく形にはなるんですが、一人ひとり順番に、まず最初から聞いていきたいと思います。場合によっては、そこでかなり手が挙がっている場合には、二、三人まとめて順番を決めて、またそこで一遍に一人ひとりやるとちょっと時間がかかりますので、そういう時間のロスのないように対応していきたいと思っています。

あと、その後、同じような意見が重なる場合には、その他意見が異なる方の意見を聞いていただくというような形で、いろいろな方のご意見を、いろいろな職業の方からのご意見などお聞かせいただければと考えております。

ホームページのほうには主婦とか学生、教育関係者及び農林水産業、建設土木関係、電力、原子力、研究所、関連各社、運輸、商業、サービスというふうな業務の仕分けをして出しております。そういう形で職業も含めて、どういう意見をお持ちですかというような形でお答えしていただければと思っています。

こういうような注意ですけれども、これを守って引き続き運営していかなければと思います。よろしくお願ひいたします。

○豊島寛一 委員長 それでは、限られた時間でありますので、早速意見聴取会に入りたいと

思います。

ただいまの請願4件につきまして、皆様方のご意見をお願いしたいなと思っています。

それで、始まる前に意見のある方、挙手をひとつお願いできればと思います。

それでは、大勢のものですから、3名ほど指名させていただきたいと思います。それでは、女性の方。あと、2人、また、女性ですね。じゃ、前の方。

○ホンゴウ 白方中央在住のホンゴウと申します。現在は主婦ですが、それまでは41年間病院に勤めておりました。

私の意見ですが、私は東海第二原発の再稼働に反対し、即時廃炉を求めます。

昨年の福島第二原発の過酷事故により16万人もの福島県民が、北海道から沖縄に県外に避難を強いられています。そのうち4万5,000人は人口流出と言われています。

少し古いデータですけれども、9月10日現在、東北3県で不明者が2,814人、福島県は放射能汚染で、この不明者の捜索ができなかつたことがとても残念だということを知事から聞きました。現在避難されている方は、本当に環境を破壊され、生活権や働く権利も奪われています。

昨日来、福島の過酷事故と同様の事故を想定した放射能拡散状況が報道されています。30キロ圏外でも高線量の防災線等をつくる計画は困難とも言っておりました。福島第二原発の過酷事故により、多くの障害者や高齢者が避難途中や避難所において関連死が何百人と出ています。避難場所が200から300キロ離れ、移動中や公共建物での避難所での死亡です。人間は環境が変わるとストレスが発生し、健康を害し、死に至ることも多くあります。

東海第二原発から30キロ圏内に100万人と言われています。幹線道路は6号国道と245号線です。道路の渋滞は避難をおくらせることになります。

23日のNHKニュースで、伊方原発の避難訓練が放映されていました。時間がかかるということが問題というコメントがありました。

東海村民は全員が健康な人ばかりではありません。乳幼児、高齢者、障害者と、弱い立場の人たちの避難はどうなるのでしょうか。東海原発第二から2キロ圏内に、ご存じの方もいらっしゃると思うんですが、独立行政法人茨城東病院、昔は青嵐荘と言っておりました。ここには重症心身障害児が120人おります。そのうち1割が呼吸器を使っている方です。それ以外も自分で動くこともだれもできておりません。そういう人たちの避難も含めて、村としてどういう立場で考えているのか、その辺も検討していっていただきたいと思います。福島を繰り返させないためにも、ぜひ教訓を引き出して、肝に銘じていただきたいと思います。

以上です。（拍手）

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

○イシザワ 名前はイシザワと言います。ひたちなか市に住んでおりまして、仕事は原子力関係、東海へ勤めております。

まずは、発言する機会をいただきまして、どうもありがとうございます。

2点ほど述べさせてもらいたいと思います。

1つは、今回第二原電、第二発電所ですね、廃炉、再稼働と中止とありますけれども、私の意見は再稼働は安全性を確認して、確認できればすべきであるというものでございます。理由は、我々この先、10年も20年も恐らく電気を使って生活をしていかなくちゃいけない。今やはりどうしても電気料金上がってき、収入が少ない方とか厳しい経営されている工場の方とか、どうしてもやはり厳しい見直しだと思うんですね。これは経済へ影響が大きいんで、ここはまずは、発電所を安全確認できれば運転したほうがいいと考えております。これは1点目です。

2つ目は、今ちょっと何でこういう議論をするのかなと。私たちは技術屋ですので、ちょっと理屈っぽいかもしれませんけれども、やはりその発電所があると、もしかしたら去年みたいな福島第一の事故がありましたんで危ないと、何とかとめてほしいと、そういう思いがあって、こういう意見が上がっているのか、危ないからやめてほしいというふうに理解しております。じゃ、仮にですよ、仮に、ここで廃炉とか再稼働停止というのが決まった場合ですね、一体その危ないというのが本当にクリアされるのかと。やはりすぐには停止もできませんし、廃炉もできません。やはり今、我々がやるべきことは、それぞれの立場で1つずつ自分の仕事をやっていくことだなと思っています。私は原子力関係ですから、施設の安全を確認して、安全に運転していくと。反対の方があれば、我々の言っているその安全性をチェックしていただいてもいいでしょうし、再生エネルギーとか、そういうのをもっとどんどん具体的にやっていきましょうという話もされていいと思います。あとは、全然そういう距離もないと、我々みんなで共通なのは、大きい地震が来て、大きい津波が来て、原発危ないといふんであれば、原発だけ危ないということはないんですね。どうしても、その地域全体で大きい地震にも遭いますし、大きい津波もあります。ですから、そのときに大きい地震に遭った人が津波に遭ったときに、我々自分の身をどう守ろうか、ここを一生懸命まずは考えるべきではないかなと考えています。それぞれの立場で、まずは自分のできることを一生懸命やって、この東海村を次の世代に引き継いでいくのが我々の使命ではないかと考えております。

以上です。（拍手）

○武部慎一 副委員長 先ほど後ろのどこかでICレコーダーが使われているという連絡がありましたので、その方は至急ちゃんとスイッチを切るなり、対応していただければと思います。よろしくお願ひします。

はい、どうぞ。

○アイザワ 東海村の舟石川駅東に住んでおりますアイザワといいます。

私は東海第二原発は再稼働をしないで廃炉にしてもらいたいと願っています。

国によるエネルギー政策によって取り返しのつかない事故を起こし、そこで暮らしている人々の生活は、もう二度と戻らない、戻れないわけですね。3・11の大震災で大きな被害を受け、福島原発の過酷事故は1年7ヶ月たった今でも破滅的大惨事から抜け出せないで、先の見えない不安に苦しんでいます。既にスリーマイル島事故や、それから、チェルノブイリの原発事故のときから原発はなるべくとめてほしいと前から思っていたんですけども、福島の事故を見たら、絶対日本ではやめてほしいと思っています。

それで、村の中で署名活動をみんなでやりました。近所や、それから、周辺のところを歩きましたら、みんなもう快く署名をしてくれましたし、心から廃炉を願っている人が多いことがわかりました。で、もう原発は終わりだね、こりごりだという人がたくさんいました。知事のほうにも4月段階で、最初は1万人ぐらいでと思っていたんですけども、17万以上も4月段階で集めて知事に届けてきたら、重く受けとめるという返事だったので、本当に重く受けとめてくれるのかなと思っています。逃げ場のない狭い日本で30キロメートルの中に100万人近くの人が住んでいると言ったら、どこに逃げたらいいのかわからないし、東海の原発は日本の中で一番人口が集中しているところで、本当にどこに逃げていいかわからないと思います。

それから、第2番目の理由としては、放射性廃棄物の最終処分の問題です。原発を始める頃から、動かしながら再処理のことを考えて廃棄物の研究をしていくんだと始めた。まだ技術もないうちからそんなことを始めちゃったので、今になっても放射性廃棄物の最終処分の問題は、技術的な処分方法は、いまだに見通しが立っていないと思います。原子力の利用によって人類は不滅の放射性廃棄物と、それに伴う永久の永遠のリスク管理につき合わなければなりません。費用もどれだけかかるか、福島の事故の解決までにも1基だけ、そういう事故では大変な事態になっていると思います。発電の費用はすごく原発は安いとか言っていたけれども、これは全くのたらめだと思います。

それから、被曝作業による、作業しながらじやなくちゃ電気起こせないような、そういうのではなくて、やはりこれからはクリーンなエネルギーを選択すべきだと思います。

以上です。よろしくお願ひします。（拍手）

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

それでは、挙手願います。

はい、女性の方。次、男性。

○コバヤシ すみません、私は白方に住んでいます、コバヤシハルミと申します。

私は主婦なんですが、やはり今までこういう機会で発言したことはなかったものですから、やはり主婦としてであっても、はつきり嫌なものは嫌だとはつきり言ったほうがいいかなと思いまして発言いたします。

私も原発はゼロにしてほしい。東海第二発電所は、やはり廃炉にして、再稼働はしないでほしいという希望を持っています。

その理由は、私どもは27年になります、東海村に住んで。近所には昔と違って何十倍の人たちがおうちを建てて、特に赤ちゃんや小学生や中学生を育てている家庭がたくさんいます。そういう人たちのことがやはりあります。先ほどいろいろありますが、女子会というのを私は主婦なのでやっていますが、その人たちは原発に勤めていらっしゃる人の奥さんたちが多いんですが、やはりその人たちは本音は、やはり主人は勤めているけれども、私は怖いというのも私にはちらっと、でも、表立っては反対はできないって、そういうふうに言っているのが本当のことだと思っています。

私は新しい家が建っていて、そのお若いお母さんと話したこともあるんですが、今は食べ物はもう九州のほうの野菜を買っているって、高いけれども、買っている。水も買っているということで、とても不安なんだというのを言われて、物すごく今、若い層のお母さんは不安を持っていると思います。最近、きのうもおとといも地震が物すごくあって、もう本当にびくびくして、もし東海第二発電がまた再稼働したら大変なことになっちゃう、東海村は終わりになっちゃうというような気がして、だれもそういうふうに思っている人が多いんではないかなと私は思っています。

原発を廃炉だけでなくして、やはり東海村でやってる太陽光発電がとても好評で、施設でやっているのがとてもいいということで、私はうちがまだ修理ができていないんですね、ひびが入っていて。工務店には頼んであるんですが、順番が来ないんです。だから、それが終われば修理が、太陽光発電ということも考えています。そういう意味でクリーンなエネルギー

一が本当にいいと。でなければ、今も若いお母さんたちが本当にびくびくして、私を含めて子どもや孫に東海村を今までのよう安全にしてほしいというふうに思っています。

以上です。（拍手）

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい。

○イワモト 発言する前に委員長にお願いしたいんですけども、きょうは村民の意見を聞くという場ですから、賛成であっても反対であっても、その後に拍手はやめたほうがいいんじゃないかと私は思うんです。静かに聞くという態度でないと、何か私はこの場にふさわしくないと思います。考えていただきたいと思います。

じゃ、読み上げます。

私は、原子力関係の職場で40年余働いてきましたが、その体験では原子力の職場で自由に意見を言える状況はありませんでした。こうした職場の実態から安全を守れる保障がないと考え、再稼働は危険であることを述べたいと思います。

安全を守るために安全システムづくりだけではなく、その職場で働く人々の発言の自由が確保されることが最も重要です。特に少数意見や反対意見の発言が保障され、賃金や身分待遇で差別を受けないことが必要です。会社の経営者が、私はあなたの意見には反対だ。だが、あなたがそれを主張する権利は命をかけて守るという民主主義の根幹である言論の自由を守る原則に立った倫理が求められています。

私は、原子力の職場で労働組合にかかわっていたとき、従業員の生活と安全を守るとともに、地域住民の安全を守って、ともに歩むことが会社発展の道と考え、基本としてきました。それは当時、水俣病が発生して、その原因究明を会社と労働組合が一体で隠した背景があったからです。それから60年余、水俣病の被害はまだ終わっていません。さらに福島の原発事故被害は、今後それ以上に続くことが予想されます。

以上のような状況を考え、安全を守るためにには、以下の2点が特に必要と考えます。

第1に、原子力会社の経営者が原子力研究の原点である自主、民主、公開の3原則に立ち戻り、言論の自由を守る権利を自ら確立することです。

第2に、原子力で働く人々は労働組合に結集し、会社と一線を画するという労組の原点に立ち、職場の発言の自由を確保し、賃金差別や身分差別を許さない運動をすることです。そして、原子力の職場を支えている下請や非正規の方々を正規従業員にするよう要求することです。個が確立し、尊重される職場や社会でなければ安全は守れないことを訴え、私の意見

とします。

最後に、原子力関係の労働組合が脱原発の団体や住民と積極的に懇談し、従業員と地域住民の安全を守りながら、会社発展の道を切り開いてほしいと心から願っています。

以上です。（拍手）

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

ただいま男性の方のご提案がございました。拍手のほうはやめていただきたいというふうに思います。拍手禁止ということにさせていただきます。

それでは、次の方。じゃ、黄色い方がお一人ね、じゃ、はい。もう一人、3名くらいいる、じゃ、男性の方お願いします。

○セキタ 白方中央のセキタと申します。

再稼働反対、即時廃炉の立場から発言します。

政府と電力は、スリーマイルやチェルノブイリという過酷事故に背を向けて無視してきました。その結果、動燃再処理工場の破碎爆発事故、JCO臨界事故が起きても、政府も電力も原発に対する安全神話を改めず、反省も見直しもしていません。福島事故は自然災害ではなく、過酷の事故を想定せず、安全神話を振りまき、札束でほおをたたくやり方で国策として進めてきた人災です。国策の名のもとに進めた過去の侵略戦争は、悲惨な過去をもたらしました。日本国民は広島、長崎、ビキニと被爆の洗礼を受け、今まで原発は福島という新たな被曝者を生み出しました。福島県民や原発作業者をはじめ、広範な国民に今後さらに被曝者を増やすことは間違ひありません。帰宅困難者がいつ帰れるかも明言できません。帰ったとしても、放射線管理区域と同じレベルで生活することが妥当だと思う人は、推進論者だけです。推進論者は電気が足りない、村の財政が減る、雇用が奪われると言い、御用学者は東海第二は安全、死んだ人はいない、放射線は体にいいと言います。放射線作業従事者でも可能な限り被曝しないように努力しているのです。一般住民は医療用以外で被曝する必要は全くありません。

福島事故の年は夏冬ともに電気は足りました。今年の夏も余裕がありました。電気は足りています。原発をなくすと村のお金がなくなるという理論は、原発のない自治体はすべてお金がなくなるという矛盾を説明できません。福島はだめだが東海第二安全といううそにもだまされません。福島も東海も同じ型の原発で、なぜ東海だけが安全なのですか。世間にはそれぞれの分野の専門家がおります。地震や津波の専門家、気象の専門家、火山の専門家まで、それぞれの立場からその危険性を説き、注意を喚起しています。原子力の専門家は放射性物

質は安全、プルトニウムは飲んでも大丈夫と、言いたい放題です。なぜ原子力の専門家を名乗る人たちだけが危険と言えないのでしょうか。

原発という巨大な利益を生む集団から研究費という名で買収された専門家としては、国策として推進される原発路線には……。

[「何で……」と呼ぶ者あり]

国策として推進される原発路線には絶対に危険とは言えないので。マスコミの広告に縛られて新聞、テレビに登場する専門家は、すべて推進論者なのです。そして安全性を振りまき、データ改ざん、事故隠しには目をつぶり、過酷事故は起こらないと54基の原発列島をつくり上げてきました。

未来に責任を持たない原発路線は直ちにやめ、再生可能エネルギーに路線を変えるべきです。東海第二原発は再稼働せず、直ちに廃炉することを求めます。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

先ほどもれた方おりましたね。

○セキ すみません。

[「ちょっと待ってください」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 はい、どうぞ。

○セキ 日本原子力発電労働組合で役員をやっております、セキと申します。役員を代表しまして一言意見を述べさせていただきます。

これまで日本における原子力の平和利用は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故によって、国民からの信頼を大きく失うことになりましたが、今回の事故を契機に国や事業者が主体的になって、真摯にさらなる安全確保に努め、国民から信頼を得られるよう努力するのが最も肝要であると考えます。

一方、日本が抱えるエネルギー問題は、震災前後で何ら変わっておらず、再生可能エネルギーについても現時点においては原子力発電の役割を代えがえするまで至っていない以上、被災した東日本を復興し、豊かな国民生活を守り、日本経済を立て直すためにも、引き続き原子力発電の利用は必要不可欠であると私は考えます。

また、日本の原子力の発祥の地である東海村においては、国の原子力政策の一端を先進的に担い、地域住民の皆様のご理解と立地自治体の協力のもと、原子力発電所、燃料加工工場、再処理施設等、さまざまな原子力関連施設が立地するなど、今や原子力関連産業は多くの村

民が従事する雇用の場となっております。

このように原子力とともに発展してきた東海村が、これまで築き上げてきた人材の確保と技術伝承、原子力という地域としての信頼関係、国際貢献は日本の財産であるといえ、今後も引き続き原子力政策を発展的に進め、国内外に貢献していくことが原子力発祥の地である東海村に求められる役割であり、果たすべき責任であると私は考えます。

そのような観点から、現在停止中の東海第二発電所については、現在原子力規制委員会にて進められている、科学的、技術的な観点や最新の知見等を取り入れて整備される審査基準に基づき、安全確認がされた後、地元自治体への理解を踏まえて再稼働させるべきと考えます。

震災を踏まえた上で東海村が政策転換をし、中長期的な構想として脱原発を目指すことは、村の財政や地元経済に大きな影響を与えるとともに、原子力専用会社の企業運営は、立ち行かず、これにより原子力関連産業に従事する雇用は奪われ、家族との生活さえ脅かされかねない状況に至ります。原子力関連産業に従事する者も村民であり、生活者であります。

よって、生活の基盤を守る観点を失した政策判断がなされることがあつては絶対なりません。科学的知見に基づかない風評と言える判断で政策転換をするのではなく、村の財政や経済、雇用というような影響について、客観的、定量的な評価を行った上で尊厳等を村民に示し、議論すべきと考えます。

以上でございます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○ハナシマ 那珂市に住んでいるハナシマと申します。

長年、旧原研、今は原子力研究開発のほうに勤めています。労働組合の役員をやっていますが、きょうは個人の意見を言わせていただきます。

まず、私は将来のことを考えれば原子力は必要だと思っています。必要というよりは開発したい。ですけれども、それと今、目の前にある原発を認めるかどうかというのは全く別の問題です。先ほど安全が確認されたらという話がありました。問題はそこです。安全が確認できるのかということです。現時点で今の東海第二原発です。それが私の一番言いたいことです。

で、いろいろ思い出してほしいのは、福島第一の事故で「想定外」という言葉がありました。私から言わせれば、想定外なんていうのは重大問題なんですね。要するに、原発というのはまれなことにも備えなければならない。それに対して、こういうことが起こり得る。だ

から、それに対してこう備える。そうやって安全を守ってきたはずだったんです。ところが、全部想定外、津波、地震の揺れ、それから、長時間の交流電源喪失等々ですね。それが今我々の技術レベルの実態です。それを踏まえて言わなければいけない。だから、それは安全委員会がオーケーだったら、いや、今度は規制委員会ですか、安全だと言ったら安全だと思うのか。私はそんな言葉だけでは信用できません。それだけの話です。

で、原子力を進めたい人は、何か誤解しているんじゃないかと思うんですね。確かに、簡単には原発事故は起きないと私も思っています。でも、まれでも起きたら大きいんですよ。それは東海村はどうこうというレベルを超えてます。国の危機になるということです。それを考えれば、今の原発を少々手直ししても、私は安全は確認できるレベルにはならないと思っています。ですから、東海第二原発は、さらに首都圏に近いことがあって、事故も多いし、何かあったら首都圏まで大ダメージが来るということもあり、なおさら東海第二原発は早々に放棄すべきだと私は思っています。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

じゃ、最前列の女性の方、はい、真ん中の方ですね、それと男性。とりあえず3名、お願ひします。

○オカモト 船場のオカモトと申します。

私が一番伝えたいことは、絶対にふるさとを失いたくない。将来にわたって安心して住める環境を子供たちに残したいということです。残念なことに福島原発事故で茨城も汚染されました。このあたりの空間線量であれば大したことはない。心配しなくても大丈夫だという人がいるかもしれませんが、震災前に比べて汚染されたのは事実です。悲しいことですが、これからはずっと汚染されてしまった土地で生きていくしかありません。低線量被曝はしきい値がないなどと言われ、できるだけ被曝は避けるにこしたことはありません。特に小さい子供はその影響を甘く見てはいけません。これ以上ふるさとを汚したくないと考えるのは、子供を産み育てていく親として当たり前の感情ではないでしょうか。理屈ではありません。もうこれ以上、自然が汚れるのは嫌なんです。自然は、一度汚れてしまうと、もとどおりにはなりません。そのことがとても重要です。

あと、深刻な問題が核のごみ、放射性廃棄物です。既に放射性廃棄物の問題は日本だけでなく、世界中が抱えている大きな問題です。今まで解決することなく先送りされ続けてきました。経済的な問題として原発のことを議論するのは、本来一番に考えるべきことを全く無

視しています。最終処分場すら決めることができない状況で、これ以上、廃棄物を増やし続けることは無責任きわまりないと私は思います。このままでは将来、原発を受け入れた立地自治体で廃棄物を保管し続けざるを得ないことになるのではないかでしょうか。そのためには、常に人材とお金を用意し、管理し続けないといけません。その間、何か大きな事故が起これば避難することを余儀なくされる可能性があり、財産や住む場所など、生活基盤すべてを奪われる可能性があります。

今、東海村に求められているのは、いかに原発を安全な状態で廃炉処理を進めるかであって、茨城県内では次々と東海第二原発の廃炉決議が決まっています。福島の事故を見てわかるように、原発問題は立地自治体だけの問題ではありません。地元にとって原発問題は、エネルギー問題ではありません。金の問題です。そして雇用の問題です。なぜ、危険性に気がついてもなお安全だという言葉を猛進し続けられるのか、本当に理解できません。

人は、自分にとって都合の悪いことは考えたくないものです。しかし、そんなことを言っている場合ではありません。危険なことは嫌だという人間の本能としてのごく当たり前のことを普通に言えない環境、状況というのは異常です。すべての人が後悔し、悔やみ、悩み、苦しむことのないよう、真剣に考えてほしいと思います。我慢をするのではなく、皆が幸せになれる選択をしましょう。

○ 豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○ 豊島委員長、ちょっと意見があります。

○ 豊島寛一 はい。

○ 今、意見聴取会の進め方について、今8件の意見をお聞きしていましたが、そのうち6件が再稼働についての反対意見、再稼働については安全性を確認する意見が2件ということで、無差別にこう指差しで、こういった指名をすると偏った意見が出るんではないかと思いますので、その辺は考慮して、皆さんから公平で公正な意見を聞くという立場で、やはり進めたほうがいいと思います。

[「手を挙げている方がいるんだから、いいんじゃないんですか」「そうだよ、おかしいよ」「かなり賛成」と呼ぶ者あり]

○ 豊島寛一 委員長 いや、私のほうで判断するのはちょっと難しいんで、まず、手を挙げている方をこのように優先ということで進めさせていただきたいと思います。私は、賛成か反対かというのは、ちょっと顔を見ただけでわかります。

[「後ろのほうも指名してください」と呼ぶ者あり]

○タカハシ それじゃ、賛成のほうの意見を言います。

一部の政治家やマスコミは原子力発電ゼロということを声高に言いますけれども、その場合ですね、1億2,800万もですね……。

[「名前、名前言ってください」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 すみません、お名前言っていただけますか。

○タカハシ 名前はね、豊白のタカハシと言います。

要は、その1億2,800万の国民が、これからどんな負担をして、どんな問題に変えていかなければならぬのかということについて、要するにその説明がないわけですね。そういう意味では、国際社会の中で日本がどんな国力になっていくのか、国民に対して、そのような分析した説明というものは今までありません。

現在の世界は、効率的な原子力エネルギーが世界の繁栄を支えていると言っても過言ではないと思います。温暖化対策にも有効であるし、そしてアメリカ、アジアは今後100基も増設の計画があると言われています。日立、東芝、三菱は、日本の原子力発電の実績を踏まえて、世界に原子力発電を輸出する有力メーカーです。人類の運命の歴史を見てもエネルギー政策に失敗した国は滅びています。23年度、化石燃料の輸入に日本が支払った金額は23兆円、原発停止して火力発電を増やしたために、液化天然ガスLNGに4兆円というお金がかかっているわけです。貿易収支も31年ぶりに2.5兆円が赤字、これは日本の富が急速に失われていくことであって、現在日本は世界第3位の経済大国ですけれども、円高や高いエネルギー費用、電気料金高騰によって収支が悪化して、国際協力に耐えられず、大企業は海外のほうに移転しています。要するに、空洞化が進行しているというわけです。次に来るのは中小企業の倒産、失業率の増加、雇用不安や年金破綻、生活レベルの低下、国力の低下によって竹島だとか尖閣列島の領土問題の敗北もあり得るのではないか。そして現在、国の借金が1,000兆円もある。これは日本はギリシャのような国家破綻ということも考えなければいけない。

よって、かつて東海村の賢人たちは収支の危害に立ちて、他所に先駆け、国立の結核療養所や原子力諸設備の誘致をして、世界に東海村の名を知らしめました。こういう意味で、ぜひ福島の原発は大変不幸なことありましたけれども、原因を真摯に反映して、技術的な安全対策を起こすことが、東海第二発電所が、より安全な原子力発電所になるんではないかと思います。そういう意味で、東海村の次世代に豊かな住みよい次の日本を引き継ぐためにも、今、東海第二発電所は必要であると思います。

以上です。（拍手）

○豊島寛一 委員長 拍手はご遠慮いただきたいと思います。

[「後ろで手を挙げています」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 後ろの資料を上げている方。はい、そちら。じゃ、最後列。以上の3名。

○カワノ 私は白方に住んでおります、カワノと申します。

発電所から1.7キロぐらいのところですかね、白方小学校のすぐ近くに住んでおります。

それで、3・11のときは本当にメルトダウンというのがね、まさか現実に起こるとは思っていませんでしたね。ですから、私も安全神話に毒されていた一人だなとつくづく思っております。

原子力災害の怖さというのは、ほかの宮城とか岩手と違って、やはり人間関係をばらばらにするということですよ。それで、地震と津波だけだったら、不幸というのはすごく目に見えて、みんなで一緒にやっていこうって、一つにまとまるんですね。だけれども、原子力災害というのは、福島の方の話を聞きましたけれども、家庭内でも夫婦間で対立したり、親子の間で対立したり、そして隣近所で、そして友人、知人の間でも本当に対立していくんです。それはなぜかというと、まずは避難するしない、それで対立するんですね。そして、日常の洗濯物を外に干すか干さないかとか、それから、マスクをするしないとか、子供の学校給食食べさせるとか食べさせないとかね、そんな日常の細かいことから対立していくんですよ。そういう怖さというのを原子力災害というのは抱えているということなんですね。そして、目指す方向が見えない。本当にこの原発さえなかったらって、それで命を絶った酪農家の方がおりましたけれども、それが原子力災害なんです。だから、ほかの災害と違うところ、一番違うところです。

もう一つは、前の方も何人かおっしゃいましたけれども、やはり原発は建設当初から「トイレなきマンション」と言われて、使用済み燃料の最終処分方法、いまだに40年もたっても決まっていない。どんな方法も決まっていないということ。そして、処分が決まったとしても10万年も管理しなくちゃならない。そういう代物ですよ。そんなのを子供に残していいんですか、私たち大人は。現在の便利な生活のためにとか経済活動のためにとか言いながら、こんなものを残してはいけないと思います。

あと最後に、村長の発言についてですけれども、村民の命と財産とふるさとを守るということで、いち早く表明していただきまして非常に心強くありがたく思っています。首長としては、こういうのを言うのは、一番大切な任務なんですけれども、なかなかこれはできない

んですね。ですから、村会議員の方々にお願いします。村長を見習って、目の前の利益じゃなくて、特に子供の未来のために原子力発祥の地から廃炉の決議をしてください。お願いします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

先ほど資料を上げていた男性の方。

○カトウ 村松に住んでいますカトウです。

私は、ちょっと皆さんと違う観点から、この東海2号炉を廃炉にすべきだということを述べてみたいと思います。

それは、いろいろな製品の安全を証明する方法としては、やはり自動車なんかは完成品を衝突させたりぶつ壊したりして、それで安全だということを証明します。ところが、原発に関してはそういうことはできないんですね。したら大変なことになるから、それはできません。福島でそれは証明したということで、そういうことになってますけれども、それは本当にひどい目に遭うんだということを証明しただけです。だから、そういう意味では原発は安全なものではないということを証明したということだというふうに思います。そして、だから、安全でないから、じゃ、いろいろな防護策を講じようということいろいろなことをやります。

しかし、その政府、あるいは民間の事故調査委員会が結論として述べているように、それは複雑な安全装置がいろいろついていると、それをやはりそういうふうに複雑にすればするほど装置そのものが不安定になり、人的なヒューマンエラーを起こす可能性を生じさせるわけです。だから、今度のその報告書の中でも、そういうことが証明された。だから、人災なんだと、ヒューマンエラーでこういうことが起ったんだということ。これは決して装置だけではなくて、その組織の問題もあるし、政治的いろいろな指導の問題もありますけれども、そういうものが一切合財今度の問題で人災だったということを証明しているんだというふうに思います。だから、そして、日本はそういう意味では原発を持つ資格がない国だということを強調しておきたいと思います。

そういう意味では、直ちに今、東海2号炉は廃炉にしていただきたいというふうに思っています。

そして、その新たな防護策ですが、それをつくるということは、さらに複雑なシステムをつくるということになって、余計不安定になるということになると思います。しかも、その防護にかかる費用は電気料金に上乗せして、我々から徴収しているということがあると思

います。そういう意味では、そういうことをやめて、一番安全なのは廃炉にすることが一番安全なんだということです。安全で安心して暮らせる、ふるさと東海村を守るために残したいと思います。よろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

女性の方、おりましたですよね、この列。

○イガリ 私は中丸区のイガリと申します。

私のふるさとは福島第二原発のある楢葉町です。東海村の住民になって38年になります。私のふるさとにも、子供たちのふるさとにも原発があるということは誇りでもありましたし、また、原発の恩恵も受けてきました。放射性物質が危険なものとは知っていましたが、国の政策で進められて、安心・安全と聞かされてきましたので、まさか水素爆発が起きるとは夢にも思いませんでした。安全と言うのだから、当然冷却装置は防水され、予備の非常電源も何カ所かに分けてあるものと思っていました。次々と爆発する映像を見て、何で、何でという想いでいっぱいでした。前々より、大津波や非常電源の機能喪失を指摘されながら、経済を優先し、安全を後回しにしてきた結果だと思います。そのため、住民はいまだに苦しんでおります。

3月12日、原発が危ないので逃げてくださいとの有線放送で避難が始まりました。何が危なくて、どこに逃げたらいいかもわからず、二、三日で帰れるだろうと、着の身着のままで逃げ、現在に至っています。仮設住宅ができるまでの5ヶ月間、住民は各地を転々とし、少ない人でも四、五回、夫の兄夫婦は今まで7回の転居をしました。その間に元気だった、おじと夫の母を亡くしましたが、知らない土地での葬式に家から出してやれない悔しさと、お墓におさめることができないのでお骨を持っての引っ越しはとても切なく、悲しい出来事でした。一たび事故を起こすと、東海村もこんな大変な思いをするということを皆さんに知ってもらいたいと思います。

そして、もし事故が起きたら、一番危険な状態になるのは原発で働いている従業員です。皆さんのご主人や息子さんや娘さんが、もしそうなったときには命にかかわることを頭に入れておいてください。

地震国日本です。これからも大きな地震が来ると言われています。現在の科学の力では、放射性物質を消す力はありません。どんな備えをしても絶対安全という保障はありません。放射性物質は田畠や自宅を奪うだけでなく、空気や水や住んでいた人たちの心まで奪ってしまいます。そのことを皆さん、一緒に考えてください。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、男性の方、このお二人で休憩に入らせていただきたいと思います。じゃ、もう一人、3名の方ね。じゃ、3名の方が終わりましたら休憩をとらせていただきます。
どうぞ。

○ウエヤマ 白方に住んでいますウエヤマです。原子力関連に勤めております。

先ほどからのご意見を拝聴して、原発ゼロ、リセット、ともにストップ、廃炉という、その請願の内容なんですけれども、今の時点で私は白黒をつける時点ではないと思っています。

先月、政府がエネルギー環境政策において、原発に依存しない社会を目指すというのが2030年代に向けて目指すということが出されましたけれども、その条文の中に、グリーンエネルギーの拡大状況、国民の生活、経済活動に与える影響、国際的なエネルギー情勢などを鑑み、見直していくという一文が入っております。私の考えは、まさしく私も同じです。これは不透明な問題を多く含んでいますので、今すぐ白黒つけるというのはちょっと無理かなと思っております。

これまで電源の多様化に努めてきた日本ですけれども、ご存じのとおり安定した電気を供給してきました。原発ゼロシナリオから代替エネルギーとして自然エネルギーの太陽光とか風力が考えられていますが、現状の課題として、24時間安定した電力を、電気を送れないという現実的な課題があります。これは将来的には克服されると思うんですけども、現状ベース電源として代替に今のところはなり得ない問題を含んでいます。こうした安定供給の電源確保については、ここ何年間で決めることではなくて、私たちの子供とか孫とか、その次世代、また次の世代まで考えた長いスパンで議論すべきと思っています。

次に、産業革命からご存じのように、蒸気機関が開発されました。そのとき蒸気を扱うドラムといふんですけども、これが初期の頃は爆発して、それに携わった人が亡くなっていました。じゃ、蒸気ドラムの開発を断念したかというと、そういうことではなくて、さらに再改善を重ねて現在に至っております。現在の火力発電が今、運転されているのも、こういう過程の中に入っています。

先ほど、人間は科学技術を完全にコントロールできないという意見が出ましたけれども、この英知を結集して乗り越えてきたのも人間です。

以上、まとめますと、直ちに白黒、原発ゼロ、東二の廃止ということは、決めることに関しては私は今の時点では反対です。

最後になりますけれども、議員さんを前に大変失礼ですけれども、私たち民意の代表として政治に携わる皆様には、今回の福島事故を踏まえて我が国のエネルギーの供給課題を大局的に考えていただきて、村がどうなる、国がどうなる、村をどうする、国をどうする、こういったビジョンを示していただきたいと切に願っています。

以上が私の意見です。

○豊島寛一 委員長 ほかに、お次の方、はい、どうぞ。

○コバヤシ 白方のコバヤシです。

原発反対の立場ですけれども、一応このパンフレットと原発で原子力発電所で配った、各家庭に配ったと思いますけれども、この中ですね、非常に危険な箇所があるんですね。それで、法律違反じゃないかなというふうに思うんですよ。こういうのを正々堂々と取り上げていると。この発電機ですね、トレーラーウエインというんですね、トレーラーだと、この地震が起きたらどうなるでしょう。どんどん揺れますよ、踊っちゃいますよね、発電機が。発電機は10トン近くあると思うんですけれども、そうすると、それにつながっているケーブル塔、このいろいろトラブルが起きますよね。そういうことも考えれば、これは固定しなきゃいけないというふうに思うんですよ、安全性から、予備電源として使うならばですね。それで、法律的にも多分、技術設備、電気の定置設備設計基準にも高圧機器や特高機器は固定しなきゃいけないという条項があると思うんですね。そういう点でも、これおかしいというふうに思うんです。

それから、これを見て、現地のケーブルや電線を見てきたんですけども、実際にケーブルは電球で発電所まで行っているんですね。あのケーブルの太いケーブルですけれども、あの重量からすると、横揺れの地震があった場合には電柱は倒壊するんじゃないかという可能性もあるんですね。

それから、もう一つ、結構、電柱、電線に木が当たっているんですね。電源事業法の中でも木や何かは本当は伐採しなきゃいけないんですね、ケーブルや何かを傷つけるからですね。そういうこともやられていないと。実際に本当に安全を考えてやるんならば、そういうことを、こういう正々堂々と、こういうパンフレットにすることはできないと思うんですね。本当に安全を考えているのかということをチェックしてほしいと思うんですよ。

それから、あともう一つは、村でチェックしているのかどうかわかりませんけれども、地下に発電機がありますね。地下に発電機があると、消防法からすると自然換気が必要なわけですね。地下にも設置できないんですよ、多分、消防法の観点からもですね。そういうこと

から見ると、あれをどうして東海の消防署は許可したのかというのもあるんですよ。そういう点で、やはり根本的に本当に安全を考えているんなら、こういうことは起きないと思うんですが、そういうことをよろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 もう一方、休憩前に、じゃ、最後方、女性の方。

○ツカハラ 東海2丁目に住んでおります、ツカハラと申します。

きょうは議員の皆さんに村民の意見を聞いてくださるということで、私も発言します。

東海第二原発の再稼働に反対です。廃炉にしてほしいと強く願っています。村民の命と暮らしを守ることが議員としての一番大事な仕事と思います。

福島原発事故は、住みなれた家、ばらばらにしか住めなくなった家族、友達、職場、学校、親しんだお店、たくさんの大変な、大切な日常が奪われてしまいました。今なお多くの方が苦しんでいます。暮らしを破壊され、いつ故郷に戻れるのか、健康への悪影響におびえる生活を強いられています。そして、私たちも同じような状況に置かれたかもしれないと思うと、ぞっとします。

原電は最近も立派なパンフレットを各家庭に配布しました。3・11の大震災時、東海第二原発は大丈夫だったということを繰り返しています。福島原発事故が起きたときも、まだ東海第二原発は大丈夫という安全神話から抜け出せずにいることに不安が大きくなるばかりです。どんなによいことを言っても、東海第二原発は34年稼働し、老朽化しています。いざというときの避難は困難です。使用済み燃料は再稼働すれば3年半ぐらいで満杯とも報道されました。使用済み燃料は東海村にたくさん貯蔵されているようです。この危険も無視できません。

原発を推進しようとする方は、東海原発が廃炉になったら原発施設で働く国民や家族や関連施設の経済的ダメージは大きい。東海村の財政は落ち込んでしまう。だから、再稼働反対や廃炉はできないと言います。でも、何より危険な状況に置かれるのは現場で働く皆さんです。大きな危険を知りつつ働かせるのか。原発に頼らず安心して働ける状況をつくり出す、そういう先頭に立つのが議員の皆さんのが役割ではないかと思います。

原発の再稼働年数は40年で廃炉と言われています。東海第二原発の廃炉は時間の問題だと思います。今そこにある危険を取り除き、もう一度みんなで力を合わせ、村民の命を守るためにの知恵を出し合い、東海村に安心して住み続けられるようにしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

超満員で、本当に立ち見席で大変申しわけございません。

ここで休憩をとらせていただきたいと思います。10分とらせていただきたいと思います。

休憩 午後19時10分

再開 午後19時25分

○豊島寛一 委員長 再開させていただきます。

それでは、副委員長のほうから。

○武部慎一 副委員長 ちょっと時間が、1人の個人の時間が長くなっていますので、ちょっと学会ではないんですけども、時間が20秒前に1鈴鳴らします。時間が来ましたら2鈴が鳴ります。10秒たちましたら3鈴を鳴らして、委員長からまとめてくださいということをさせていただきたいと思います。現在16名ですか、大体半分ぐらいからきていますので、あと皆さん、いろいろな意見を聞けるように時間をうまく使っていただいて対応していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

あと、先ほどかなり意見が偏っているという話もありましたので、こちら辺は意見を振っていくなり、そういうような形で少し対応していかなければと思います。

じゃ、委員長にお返しします。

○豊島寛一 委員長 それでは、本日の趣旨であります、村内の方が優先ということでござりますので、村内優先で進めてさせていただきたいと思います。

また、偏っているという意見でございますので、賛成の方、反対の方を、今までランダムだったんですけども、交互にというような考え方でお願いしたいと思います。

それでは……。

[「すみません」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 はい。

○ 賛成か反対かは、みんなわかんないわけですよね。だから、偏っているとか……

○豊島寛一 委員長 それはわかります。それはわかっています。

○ だから、さっきの拍手の具合で、どの辺は推進派なのか、わかりました。だけど、やはり発言する人はそういうことを考えて発言していると思うんですね、指名する方も。だから、推進派なのか、廃炉の反対なのかという、そういうのは余りこだわらないで、やはりみんなの意見を聞いてもらいたいと思います。

○豊島寛一 委員長 そういう意見もございますので、村内優先ということでございますので、また、村内に勤務をなされている方、優先でございますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、はい、男性の方、はい、じゃ、お二人。

○フジタ 東海発電所に勤務していますフジタと申します。

意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、福島第一原子力発電所の事故は、環境に大量の放射性物質が放出されるという、あってはならない事故となってしまいました。福島事故で被災された方々に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。このような事故を二度と起こさないために、安全対策を強化するとともに、日頃から対応訓練を行い、そして、これらの安全対策について周辺住民の方々からご理解をいただくことが、東海第二発電所の再稼働のために必要であるというふうに考えております。

今回の事故では、巨大地震を含めた自然災害に謙虚になるということが教訓として示されました。発電所で働く者にとって、発電所の安全対策は自らの職場の安全確保そのものでございます。地震、津波などの自然災害をはじめ、あらゆる災害に謙虚に対応すること。そして、二度と事故を起こさないという強い意思を持って、幾重にも安全対策を備えることに真剣に取り組んでおります。

先ほど、電源ケーブル、あと発電の自動車の設置の仕方というご指摘もいただきました。これらも我々一生懸命考えてやっていますけれども、さらなる安全向上施策という観点から、そういうご指摘もこれから受けながら、さらに安全向上していくという姿勢であるというふうに私は考えております。

そういう我々真剣に取り組んでいるということを、まず理解していただきたいということと、まず、東海第二発電所のこれらの事故防止の備えを、まず皆さんに確認していただきて、それで廃炉なのか再稼働を許していただけるのかというのを、まず判断していただきたいなど。福島事故以降の安全対策というのを、まず皆さんに見ていただきたいというふうに考えております。

もう1点は、電力はだれもやはり必要とするエネルギーでございます。エネルギーの政策は、もう国の根幹にかかわる問題であると思います。国の独立、また電気で命をつないでいる人、いっぱいそういう方がいらっしゃいます。我々はやはり電力というのをちゃんと供給していく責任があると思っております。

そういう意味でも、原子力発祥地の地の東海村の村議会として、原子力のメシカの議員の先生として議論をお願いしたいと思います。拙速に廃炉という結論は今いただく必要はないというふうに考えております。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○イリエ 村松に住んでいますイリエと言います。

私も7年くらいまでは原子力分野で仕事をしてきました。それで、今回東海第二の件ですが、1つは、原電でこういうきれいな色刷りの資料を何回か印刷して新聞、私は新聞折り込みで入手しているんですが、それで気になるのは、3月11日、津波、あるいは地震で原子炉が自動停止しました。その後、非常用冷却系で冷温停止状態を目指しましたという、そこは納得するんですが、私はどうも本当のことを、こういう公の場で本当のことを発表していないというぐあいに疑問を幾つも持っています。

具体的に指摘しますと、3月11日の地震で原子炉がとまりました。その後、非常用ディーゼル発電機も動きましたけれども、1台は海水冷却系でうまくいかなかつたと。だけれども、冷温停止を目指して、いろいろな冷却系を使って冷やして、15日の零時40分に地震から約80時間以上過ぎているんですが、それで冷温停止100℃以下になりましたというのが、こういう印刷物で流されています。ですが、私が疑問に思っているのは、東海第二と同じ原子炉である東北電力の女川では、停止後13時間ぐらいで冷温停止100℃以下になっているんです。東海第二は80時間以上かかっているんです。

私は、当原子力問題特別委員会の委員長のほうにお願いしたいんですが、例えば3月11日の停止から冷温停止まで80時間以上かかっているんですが、通常の停止操作のデータを提出していただきて、本当にぎりぎりだったのか、通常と変わらなかつたのかというのを確認していただきたいと思うんです。

あと、もう一つは、きょう、ここにお見えの方は大体ごらんになっていると思うんですが、ここに来る途中の原電のグラウンドの様子ですね。非常用電源車とか消防自動車とか、いろいろものが準備されています。ああいうものを準備しないと運転できないのかというのは異常に思います。34年たって、ああいうのを準備するというのは異様な風景だと思います。私は運転再開には反対です。ありがとうございます。

○豊島寛一 委員長 はい、お二方。では、一番最後尾。

○コバヤシ 舟石川中丸区のコバヤシと申します。病院に勤めています。

私は、東海第二原発の再稼働中止、廃炉の立場で意見を述べます。

私には1歳と半年になる子供がいますけれども、ちょうど再陣痛のときは、まだおなかの中でいましたけれども、その後すぐ生まれたんですが、ちょうどその頃、母乳からヨウ素が検出されたという話がありまして、村のほうに相談しましたが、原子力担当課の方かな、村では特別に対策はないと、国から指示もないでどうしようもないということを言われたんですね。いまだに、その不安はつきまとうわけですよ。私は以前からチェルノブイリとかスリーマイルとか、いろいろ情報を見ていますので、奇形が生まれたり、体1つで頭が2つついていると、よくある話なんですね。そういうのが、これから福島に起きたり、このもし東海で何かあれば、そういうことがあるということも考えられなくないんですね。そういうことを思うと、お金も大事ですけれども、やはり命なんだと思うんですよ。嫁が小さい、泣きやまない子供を夜な夜な抱き上げて飲ませている姿を見ると、できることといったら、今、私が廃炉の活動をするしかないなと思っています。

今、職場でKYTということをやっているんですね。危険予知トレーニングですね。原発さんがあつたら何になるかって、今、中国が尖閣で騒いでいますけれども、ミサイルが飛んできたらどうするんですかと、想定外の津波が来たらどうするんですか。

○豊島寛一 委員長 ちょっと地震のようです。

[「終わった」と呼ぶ者あり]

○コバヤシ よろしいですか。とにかく反対ということです。

○豊島寛一 委員長 じゃ、お隣の方。

○フクダ 東海村在住の原子力関係のサラリーマンをしております、フクダと申します。

私、きょう、ここの会議のために2枚、東京電力の領収書、請求書を持ってきました。1枚は普通に電気を使っている請求書8,572円の請求額が今月来ました。もう1枚、私、屋根に太陽電池ついています。私はクリーンエネルギー大好きです。そのために太陽電池を使って東京電力に売電しています。購入金額4,176円。この金額から何が言いたいかと申しますと、使った電気の量は373キロワット、私が東京電力に売った電力量87キロワット・アワー、全然送った量は少ないんです。見かけ上は2分の1に見えます。私が入金した、もらった金額というのは。ところが、電力量からいければ4倍から5倍違うんです。

この中で、今までに意見を聞いた中で代替電力というものに関して真剣に話をされた方が2名、2名だけです。おうちの屋根、建てかえたら太陽電池つけたい。私もちろんそれ賛成です。ぜひつけたらいいと思います。そうすれば使う電気の量が減りますから、発電所で起こさなきやいけないのが減ります。すごくいいことです。

私の家の計画の容量というのは1.2キロワット、これはドライヤー使えば、すぐなくなっちゃうような量です。これを年間の稼働率で考えてみると、夜も含めてです、10%以下です、10%ですよ。

原子力発電所が何で必要なのかというのは、みんな考えたことありますか、本当に考えたことがありますか。私はチェルノブイリの原子力発電所の事故というのは中学生のときに起きました。何でこんなものがあるのかなと思って考えました。真剣に考えました。そして、私はここ、原子力のまちに働いています、住んでいるのはひたちなか市ですけれどもね。これは何で発電所があるのかというと、原子力発電所というのは定期検査から定期検査の間までは100%出力で運転するんですよ。昼も夜もですよ。10%の電源とはわけが違うんです。10%というのは、つまり必要な電力を起こすのに10倍の面積が必要だということですよ。そういうのを考えずに廃炉、廃炉というふうな話をされるんですが、これは真剣に本当に考えているのか、私は問いたいです。

簡単な試算ですけれども、私の家のパネル全部合わせると、さっき申し上げたように1.2キロワットですが、これを稼働率10%で、この原子力発電所、全部で50基ありますけれども、稼働率80%だし、40基だとします。そうすると、必要な面積、計算しました。東京都と同じ面積が要ります。稼働率半分だったら山梨県と同じ面積ですよ。考えたことあるんですか。

○豊島寛一 委員長 時間です。まとめてください。

○フクダ どうもありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

一番後ろの方ですね。

○サトウ 私は日本原子力研究所に45年間勤めて、放射性同位元素の製造と核燃料再処理廃液の群分離リリースの開発等に従事し、今、退職した者です。真崎の地区に住んでいます、サトウです。

軽水型原子力発電炉、あるいは軽水型の原子力発電炉は、本質的に極めて危険な原子炉だと、危険な型の原子炉だと、これは昔から言われているんですね、本質的にですよ。ですから、圧力容器や格納容器、冷却機器や人間の力で危険を封じ込めているにすぎない。本質的な危険性を除去しているわけではないんですね。だから、いかなる安全対策、先ほどお話にも出できますけれども、いかなる安全対策を強化によっても、本質的な危険性をなくすることは絶対にできない。これをまず頭に入れておきたいというふうに思うんです。

福島の原発事故は、今まで政府や電力会社、御用学者と言われる人たちが日本の原発は絶対事故を起こさないと、これは私が村会議員をやっているときにも議会の中でも随分議論した問題です。絶対に起こさないと。ところが、今回の原発、福祉の事故は、それを見事に実証、反対の意味で実証してしまったんですね。ですから、私はこの日本においては、もう原子力発電所というものは一切要らんと、廃止すべきだと、多少一時的な混乱は当然にありますよ、それは。その混乱を今まで国や政府や電力会社の人が推進してきたんだから、その廃炉に転換して後の、いわゆる雇用問題なんかも国策的に整理していけばいい話だと私は思います。

私は、福島県の出身です。絶対に福島原発の二の舞はさせたくないし、したくない。また、東海村は私と私の子供たちにとってのふるさとなんです。ここを離れたら、どこにも行けないんです、私は。そういう意味でも、安心・安全な村づくりというのも、家族の明るい未来を描くためにも、原発、第二原発は廃止してほしいというふうに思いますし、原子力は他の危険とは違った危険性を持っているということを、放射能ということを頭に入れないと、単に石炭火力と比較しての話ではないと思うんです。

それが第1点ですし、第2点として、そもそも目先の経済と命をてんびんにかけると、こんなことは私は言語道断であるというふうに思います。これから何百年、何千年、これから子供たちが生きていくというときに大事な点ですので、その点は十分に議会の中でも考えていただきたいと思います。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

男性が続いているんで、女性の方。じゃ、入り口の方ですね。ほかにございますか、はい。じゃ、3名です。

○スズキ 村松に住んでおります、スズキと申します。

原発全廃は可能ということで意見を述べさせていただきます。

今、日本の国内には天然ガスコンバインドサイクル発電というものが、既に本年の3月、現在で163基、建設中を含めてのことですけれども、ありました。茨城にも鹿嶋に2基ございます。天然ガスの安定供給は不安ということも、よく言われておりますけれども、これは今アメリカでシェールガスの革命が起きておりまして、半値以下に、今、日本ではガスコンバインドサイクルLNGと書いたタンカーが大分走っていると思うんですけども、それで発電しております。これは今年の夏も原発がほとんどとまっている状態で電力供給に余力があつたということでも証明されていると思います。

日本が電気料金高いというのは、アメリカの6倍の高値買いをしているから、シェールガスを高値買いしているからです。この原発に対する危険性というのも私の職場にも同じ村内の方いらっしゃいますけれども、関心薄いです。なので、全村民を巻き込んでの住民投票ということ、原発の危険性と、またどうして必要なのかということと、ガスコンバインドサイクルに関する詳しい情報等を表示しまして、全村民巻き込んでの住民投票を行っていただきたいと思います。

コンバインドサイクルの発電所というのは、1年以内で建設ができます。そして、費用も原発の半値以下です。これを、もし村に発電所が建てられるなら、そこに雇用を持っていけると思いますし、この発電所は出力も停止もボタン1つでできるというすぐれものです。原発のような放射能という危険物質はほとんどありません。今も横浜港、東京湾に通しています。東海村にも置いてもいいんじゃないでしょうか。もし村で発電所の建設が難しいならば、国策として原発を推進してきた国に請求してもいいと思います。

このコンバインド発電所は従来の火力発電の5割増しの発電力がありますので、十分に原発の代替エネルギーになると思います。

ぜひ住民投票をよろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、次の方。

○ヤス 私は東海第二発電所の関係会社に勤めております、南台団地に住んでおります、ヤスと申します。よろしくお願ひします。

私も福島の事故では技術者として傷を負いました。しかし、結論としては、東海第二を含め、いろいろな現実を考えるにつけ、日本はというか世界は原子力を放棄できないと思っております。それにつきましては皆様議論のところですので、いろいろな方もおっしゃっています。ここであえて申し上げるつもりはございません。

私は村民として、もう少し現実的な要求を議会にでしょうかね、執行部でしょうかね、お願ひがあります。今の方もおっしゃられましたが、村長さんが住民投票が有効だとおっしゃられております。その場合に、東海第二発電所を廃炉にした場合のあらゆる影響内容を具体的に示していただきたい。隣町の議員さんが「発電所には300人しかいねえ」と、これは私は非常に憤慨しました。村長さんも「原発利益勢力」という言葉を使っております。私もその一員なんでしょうけれども、その原発利権勢力である東京電力の常陸那珂火力発電所、あれは東海村にあることは皆さんご存じですね。私の計算だと、初年度で40億円の固定資産税

が入っています。これから2号機も来ます。かつ原子力の関連企業から膨大な税金で村は潤っていると、これは事実だと思います。

経済より命、私も問われれば命を差し出すわけにはいきません。しかし、経済が逼迫した場合、これは諸外国が実例でたくさんございます。国家が逼迫すれば平均寿命が下がって、医者に行けない年寄りは早死にします。子供は間引かれ、つい戦前の方はご存じでしょうけれども、物価が貧窮をして娘を売りに出した。これは絶対にないな。絶対これ言えません。ということで、逆な意味で私どもは50人の関係者がおりますけれども、彼らは乳飲み子を抱えて新しいうちを建てて、金がなくなれば「それを手放せ」と私は言えません。ですから、逆に客観的ないろいろなデータを、議員さんなり執行部は出していただきたい。その条件がないと、住民投票というのは、逆に言うと議員さんの存在をうやむやにするものだと思ってますので、ここはぜひきちっと議員さんの責任としてやっていただきたいなという村民の、ちょっと変な言い方ですけれども、選挙民としての意見です。

とにかく、一言で、二者択一的な議論では、結果として住民を分断させるだけです。これは絶対に避けていただきたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

次の方。じゃ、後方、男性の方。

○吉田充宏 委員 男性のほうですか。

○豊島寛一 委員長 そうです。

○カナダ すみません、東海村の原子力関連のほうで働いております、カナダと申します。

この場で意見を述べさせていただくことを、ありがとうございます。

私の考えなんですが、即座に廃炉に向かうというのは、それについては反対です。かと言って、すぐに戻せというものでもございません。なぜかといいますと、日本のエネルギーとしましては、火力に頼るところが多く、それは海外の輸入に頼っているところが多いと、皆さんこの辺はわかっていると思うんですが、この石油の輸入物としては中東から来るものが多いと思います。この火力に頼っていくことによって、中央の情勢により石油の料金が上がれば電気代も上がりりますし、そうしますと日本の産業としては海外と戦っていくことはできなくなっていくと思います。

私個人としましても、ひたちなかに住んでおりまして、家族、妻と娘を持っております。そういう立場としましては、当然当該第二の危険性というのはとても心配している者であり、

こちらにつきましては福島で得た経験や、これまでの積み重ねてきた科学的根拠をもとにいろいろ論議を重ねていきまして、一つ一つ課題を克服していかなければと思います。

要するに、今、目先だけで反対、賛成ということで、すぐに結論を出そうとしているんですけれども、なかなかこれについては簡単にできるものではなく、一つ一つ課題をクリアしていくって、その上でもし課題がクリアできないのであれば当然廃炉になるでしょうし、その課題がクリアできるのであれば、皆さん納得した上で原子力というものを利用していくと思います。

最後になりますけれども、この場で僕のような人に意見を述べさせていただきありがとうございます。ですので、歓楽的な考えだけで結論を出すのではなく、長期的な目線に立って結論を出していっていただきたいと思います。ありがとうございます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、じゃ、次の方。

○イサカ 村松に住んでいますイサカと申します。

私は原子力関係に43年半勤めてきました。それでも、東海第二発電所は再稼働はせず、廃炉にすべきというふうに思っております。

軽水炉は過酷事故を避けることができないし、これが起これば甚大な被害を及ぼします。そしてまた、東海第二発電所は老朽化が進んでおりまして、事故とか負傷に至る危険が非常に大きいと思います。

それで、私は東海第二発電所の安全対策というのを読んだんですけども、これを読んで、非常に安全神話をまたつくり出しているというふうに思いました。例えば、通常より時間がかかりましても何も不安もなく安定的に冷温停止しましたなんて書いてあるんですけども、7時間停止からたっても67気圧という圧力があったし、その間、何遍も逃し弁の開閉を繰り返したというような状態、これはかなり危機的な状態ではなかつたのかというふうに思います。

また、ポンプが1台が、電源ですね、非常用の電源を確保するディーゼル発電機の1台のポンプが水につかって、2台でうまく運転したと書いてあるんですけども、そのポンプのわきに崩壊熱除去系のポンプもあったはずです。この崩壊熱除去系のポンプも下のほうは水につかって危なかったというふうに私は思います。いくら電源があっても、崩壊熱除去系のポンプがとまってしまえば、これは長期間熱が冷却系が起動しなかつた場合、大きな問題に、事故につながるんではないかというふうに思います。

それから、地震についてもいろいろ書いてあるんですけども、地震では600ガルの設計地震度と言って、それでストレステストをやって、1.7倍ぐらいあるから大丈夫だみたいに書いてあるんですけども、実際に柏崎で起きたのは、それよりもはるかに大きい1,699ガルの揺れが起きているわけです。それから見ると、はるかに小さいんで、非常に……、すみません。ありがとうございます。

○豊島寛一 委員長 あと少しです。

○イサカ そういう意味で、そのほかいろいろあるんですけども、原電の安全対策では全然これはなっていないというふうに思います。

以上で再稼働せずに廃炉にしたいというふうに思います。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じゃ、真っすぐの方。

○カトウ 私は村松に住んでいます、カトウと申します。

推進派と言えば推進派ですけれども、先ほど来の慎重派のほうに私は考えを持っております。と言いますのは、その理由はリスクの比較、放射能という危険物を扱う技術的なリスクの面が今まで甘かったということが1つと、それから、もう一つのリスクは国際政治的なリスク、これが、もしもイランがホルムズ海峡を閉鎖したらどうなるかと、これだって、やはり国際的なリスクとして十分考慮しておかなきやならない点であります。それで油が来なかつたら、発電は60%ぐらいの比率を占める火力発電が二、三十%ダウンしたら日本の国はどうなるかというようなことのリスク比較という点で、直ちに原子炉をとめろというのはいかがかというふうに思います。

東海第二の場合ですけれども、寿命が数年ぐらいしかない、残存寿命が数年ぐらいでしょうか。これを稼働しても、いずれは廃炉になるわけですから、何も廃炉、廃炉と第二原発について目くじらを立てて叫ぶ必要もないということで、残存寿命程度のやつは最善の防護策を施して大丈夫ではなかろうかという考えであります。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい。

○マツザキ マツザキと申します。

原電グループに勤務する一人でございます。以前は東海村に居住しておりまして、現在は水戸市から通ってございます。

私は、昨年の3・11の地震の時は東海第二の原子炉建屋の1階で体感しました。退避の手順がありましたけれども、私の判断で原子炉建屋にいることが安全ということで、地震がおさまってから外に出たということです。

さて、東日本大震災により福島第一原子力発電所が世界に衝撃を与える事故を起こし、特に福島県民の皆さんに大変な苦痛を与えてしまったことに、原子力発電に携わる者の一人として、非常に残念と言わざるを得ません。

これを受け、最近のマスコミ報道へ東海村長が、原子力発電を原子爆弾と同等と、悪の代表というような発言を繰り返しておりますけれども、我々発電所で働く者は国民の豊かな生活を支えるために誇りを持って実は働いております。東海村においても原子力施設が誘致されてから財政基盤も盤石となって、人口も3万人を超えております。

私たち電力マンは、一刻も早く原子力発電所を再稼働して、国の経済を安定化させて、国民の生活に寄与したいと思っております。そのためには、福島事故の反省を将来に生かして、改善を図り、安全・安心の原子力発電所を築いていくことが使命とも思っております。

反原発論者が危険だ、廃炉だと、総理官邸をはじめとして、各所で行動を起こしておりますけれども、原子力発電所を廃炉にするところなるという現実を見ようとはしていないんではないですかということを言いたいです。現在と生活レベルは変わることなく安心して過ごせるがごとく夢を語って、マスコミも一緒になって報道すると、聞く側にとっては美しい夢のような時代が将来あるものだと勘違いします。どうか東海村議会の先生方は、国と東海村の将来について見誤らないように判断していただきたく、切にお願いして意見とします。ありがとうございました。

○ 豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じゃ、女性の方。

○ 私は、ひたちなか市に勤めておりまして、水戸在住であります。

[発言する者あり]

○ すみません。だめですか。

○ 豊島寛一 委員長 はい、東海村在住とお勤めの方、優先です。

○ 今の方も前は東海に住んでいた方で……。

[「勤めている」と呼ぶ者あり]

○ 豊島寛一 委員長 大変申しわけございませんけれども。

はい、じゃ、その女性の方。

○スズキ 東海一丁目に住んでおります、スズキと申します。

私は、再稼働反対の立場から意見を申し上げたいと思います。

大変感覚的な意見になってしまふんですが、私は東海村に住んで23年ぐらいになります。原子力施設が人家のすぐそばにあり、事故が起きたときのことを考えると怖いなと思うながらも、大変住みよい村だと思っていました。これが動燃の火災事故、それから、JCOの臨界事故があつても、怖いけれども、住みよいと相反する思いを持って暮らしてきました。JCOの事故についてはNHKの記者が書いた「朽ちていった命」というタイトルだったかと思いますけれども、そちらのほうを読んで、施設内では何が起こっているかわからない。犠牲者はもつといるんじゃないかと、そんな疑いを持ちながらも、やはりのどもと過ぎれば住みよい村かなということでやってきました。

しかしながら、昨年の3月11日の大震災、東海原発もすべての電源喪失の一歩手前までいたということを後になって知りました。ああ、やはりそうか。原発は安全ではない。福島第一の事故は人ごとではない。震災のあの日、あのとき、お一人おひとりそれぞれの教訓に満ちたドラマがあつたと思います。原発は大丈夫かと、どの方も強い不安と恐怖を覚えていたのではないでしょうか。

私は、たまに原電構内に入ります。そう、世界を震撼させた同時多発テロのあつたときと記憶しております。245から構内への侵入道路には障害物が置かれて、うねうねとS字状になっていて片側通行になっていました。そのときにはテロ集団が直線的に構内に突入できないようにやっているんだなと、じゃ、空からどうするんだろう。海からはって、ぼんやりと思っていました。そして、今年になって、また構内に入ろうとしたら、今度は侵入道路にはバリケードというんでしょうか、それがすっかりなくなっていて、すっと通れるようになっていました。ああ、災害時の避難路の確保ほか、あれはテロ対策ではなかったのか。天災であれ、人災であれ、安全が担保されていなければ核兵器にもなってしまうかもしれない。原子力の平和利用はお題目にすぎないと思います。仮に村議会で再稼働を可決して、方が一もつと高い確率になっているかと思いますけれども、事故が起きたときには議会の議員の皆さん、どんな責任がとれるんでしょうか。福島からのメッセージはどうしますか。

○豊島寛一 委員長 まとめてください。

○スズキ はい、すみません。

○豊島寛一 委員長 よろしいですか。

じゃ、お手をお挙げの方、男性の方。

○カモシダ 私は東海村の照沼というところに住んでいます、カモシダといいます。昔の青嵐荘、今の茨城東病院のすぐ近所であります。

実は私は、旧動燃事業団42年間勤務してまいりました。この会場にも動燃のOBとか原子力の方が数多く参加されているかと思います。私は昔、動燃の前身は原資燃料公社といいまして東海精錬所ということで、金属ウランの精錬工場、それから、プルトニウム燃料工場、濃縮ウラン工場施設ですね、それから、核燃料再処理工場、このすべての施設の安全管理、放射線管理をずっと一貫して担当してきたものです。実は私の兄弟、それから、自分の息子、それから、多くの友達、実は兄弟が日本原電に勤務しておりました。それから、自分の息子、関係者も原子力関係の仕事をしておりますので、ここで私の見解を述べるのは非常に断腸の思いなんですけれども、私が42年間、旧動燃事業団で経験したことを端的に申しますと、原子力開発の先ほど何回も発言されていますけれども、放射性廃棄物の処理処分の方法が一切進んでいないということなんです。

ご存じのようにプルトニウム239は半減期2万3460年です。2万3460年たって、やっと半分になるんです。5万年たって4分の1です。人類の歴史はエジプトの文明から約5000年、人類が2万年とか数万年という経験したことがないレベルですね。この放射性廃棄物が残念ながら原子力発電所を運転すると大量に出てくるというのは、皆さんご存じのとおりです。この放射性廃棄物は原子力発電を運転しなくても、廃炉にしても、原研の海岸道路、それから、動燃の海岸、建物がいっぱいありますけれども、皆さんあの中に何があるかご存じですか。建屋から出た放射性廃棄物、それから、建屋で解体したいいろいろな機材の放射性廃棄物がビニールに入って、ドラム缶に入って、数万本、東海村にはあるんですよ。

これを考えたら、この処分の方法が全く進歩していないということを考えたらば、原電の問題だけじゃなくて、私は原子力開発そのものを全面的に否定するわけではないんですけども、ここでもう一度立ちどまって、原発を運転するとこの廃棄物がたまる。この廃棄物の処理の方法が確立しない状態では、これは日本の問題でなく世界的な問題をもう一度考えてもらいたいということで、議員の皆さんに考えていただきたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

次、どなたか、はい。

○ミウラ 村松在住のミウラと申します。東海村在住で東海村で勤務している私どもが意見をさせていただきたいと思います。

私は今回の問題について、今すぐ廃炉にするということは時期尚早なのではないかと思っています。それはなぜかといいますと、専門機関による技術的知見や意見を一切考慮せず、一部の住民の意見や一部の方々の政治の判断によって廃炉を行おうとしているからであります。

現在、東海村では高度科学文化都市構想を掲げ、より質の高い研究環境及び生活環境の整備を行おうとしていることを伺っております。その中で東海村は原子力規制庁など、原子力専門機関の調査や意見を待たず、科学的な根拠なしに、すぐに廃炉にしようとするることは、科学的研究をないがしろにし、科学文化都市も結局は政治に左右されてしまうということを研究者に示してしまいます。それは、東海村が目指すところではないと私は思っています。

原電において、東海第二発電所は震災後の対策を行っていると伺っていますが、私はそれは十分なものであるかは判断できませんし、対策を行ったからといって、すぐに再稼働とするべきだとは私も思っていません。それであるからこそ、専門期間の調査や意見をもらい、さらに住民全体の意見を理解した上で廃炉であったり、または再稼働の判断をするということが科学文化都市の行政のあり方なのではないでしょうか。

この東海第二発電所の問題は、政治的な判断のみで話をしているように私には思えます。また、政治的判断において発電所停止によって村の収入が減ること、労働者が減って、まちが活性化しないなどといったデメリットを踏まえても、今すぐ廃炉を東海村で単独で決定するということは必要があるのでしょうか。私には、すぐにはするという必要はないと思っています。冷静に考えてみて、東海第二発電所は老朽化の観点から、いずれ廃炉になることは避けられません。その廃炉の根拠において、科学的な根拠に基づいて、しかも、住民及び事業者だれもが納得する状態で廃炉を迎えることが原子力分野における科学技術の進歩につながると思いますし、だれもが納得していただけるように説明した行政活動が、東海村行政のさらなる進歩につながるのではないかと思っています。

以上の理由から東海第二発電所を現時点で廃炉にするのは時期尚早であり、専門機関等の調査、意見を踏まえ、改めて議論るべきではないかと思っています。

以上で発表を終わりにします。ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

はい、それじゃ、女性の方、入り口の女性の方お願いします。

○吉田充宏 委員 女性の方。

○豊島寛一 委員長 入り口の女性の方。

○吉田充宏 委員 一度、先ほど……。

○豊島寛一 委員長 先ほどの方。

○吉田充宏 委員 ええ。

○豊島寛一 委員長 じゃ、こちらの。

○セキ 長々言いません。シンプルです。私は、那珂市に住んでいて、東海村の会社に勤めています、セキと申します。

3・11の事故以降わかったことで、原子力が一番発電コストが今、高いんですね。一番高いのをわざわざやる必要があるのかということが1点。

あともう一つ、東海第二原発はかなり古いです。34年たっています。40年廃炉で考えると、あと数年しか動けないですね。そうなると、たった数年の発電のために危険を冒すのはどうなのかということです。リスク、利用などが合わないです。その部分ですね。

以上です。

○豊島寛一 委員長 はい、どなたか。

はい、どうぞ。

○ナカジマ 白方に住んでおります、ナカジマと申します。

結論から申しますと、私は日本は原子力発電を継続すべきだと思います。

次に、理由と条件を述べさせてもらいます。

去年の3月11日ですね、それから、数日間停電しました。このときの生活はかなり大変な目に遭いました。ふだん何気なく使っている電気を、いかにありがたく使わせてもらっているかということを身をもって知りました。自分が使いときに、無駄な電気は使っていませんけれども、それから、使いたいときに使いたい量ができるだけ安いコストで送ってもらうということを実感しました。そのことがあるんですね。日本の場合を見ますと、先ほど来出でていますけれども、これらの電源は一応火力、それから原子力、それから水力、大体この3つが主な電源として今、電気がつくられています。そのおかげで我々は不自由のない生活をさせてもらっているところです。それから、数%、二、三%ですけれども、再生可能エネルギーですか、今、言っている、それをやっていますけれども、まだまだメインの電源にはなっていないと思います。

それで、去年の3月11日のときの東海第二、これは会社等の発表されました情報によりますと、稼働中の原子炉はちゃんと設計どおりに地震も受けた後、とまっていた。その後、東

海第二の場合はきちんと冷却もできたと、原子炉とか使用済み燃料プールですね、これもできました。それによって一応、第一福島のようなことにはならなかつた。そういうことが現実だと思います。そういうことでありますけれども、さらに原電さんの場合ですと、福島地区の場合を踏まえていろいろな冷却系統を、もし万が一やられた場合にどうするかとか、電源がなかつた場合どうするかとか、いろいろそういうことを想定しまして、新しい機器とか設備がつくられています。私も、ここ半年ぐらいの間に2回ほど見学させてもらいました。きちんとそういうことで言っていることが口先だけではなくて、物がちゃんと現に現場に設置されていると、そういうことが確認といいますか見せてもらいました。

そういうことを踏まえて、これからは国のほうでも今までと違つて原子力規制委員会というのをつくりました。そういうことで責任持つた対応と、それから、発電所のほうですね、電力さんもこれから謙虚な気持ちで、やはり機器は安全に管理しながら運転を継続してもらいたいと思います。どうもありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

はい、どうぞ。

○ハナイ 東海村の舟石川に住む、ハナイと申します。

私は東海第二発電所の運転することに関しては、稼働してほしいというふうに意見を持つております。

東海の話ですけれども、先日、東海村では村政懇談会ということの懇談をする場がありました、東海第二発電所が停止しても村の財政については問題ないというふうに村長が説明していただいたのを覚えております。

今、日本国内では財政が破綻した自治体が最近は多々あります、そこで東海村には子供に対する福利厚生が大変よいというふうに考えて、私は東京からこちらのほうに引っ越してきました。ここで福利厚生とかがなくなつて生活のレベルを落とすことは、村民の一人としては私は嫌だと、待つた、というふうに考えを持っていました。

そこで、村長が説明した発電所が停止ししても村政が問題ないということが、問題が生じた場合には、東海村の財政が破綻した場合でも議員の方々は、これはこれでオーケーというふうに判断するのでしょうかということを問題として考えてほしいと思っています。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○カノウ 東海村の村松に住んでおります、カノウと申します。原子力関係者でございます。

私も原子力に携わっていますので、福島第一の事故については非常に残念に思っております。また、福島から避難される方に対しては深くおわびを申し上げたいと思っています。

今この意見の中に、いろいろ慎重派の方、反対派の方が東海第二の3月11日の件についていろいろと不安、お叱りがあったという話がありましたけれども、事業者といたしましては、きちんとそれらについてご説明させていただきたいと思いますし、きちんとご説明して理解をしていただけるという自信も持っています。きちんとした対応をしたということをご説明させていただきたいと思っています。

それと、やはり原子力発電所というのは今の日本において必要な電源だと思っております。先ほど意見でも再生可能エネルギーがどのくらいだという話がありました。非常に不安定です。そういうた電源もやはりリスクですし、原子力発電所も皆さんのが今、思っているようなリスクを持っていて、我々はそれに対して安全対策をしっかりとしていくこうと思っていますので、それらに対しての安全対策というのを考えることによって技術というのは進歩していくと思いますし、我々の生活の中で必要なものだと思っています。

また、原子力の発祥の地である東海村、これは先人が選んで今の東海村があるわけですが、そのおかげで東海村にはたくさんの原子力関係施設があります。そこには研究者も技術者もいます。そういうた人々も含めて、集めて、そして、世界最高水準の原子力発電所を目指そうというのが東海村の取り組みじゃないかと思っています。

私は東海村に住んで、原子力というのを昔に教科書の中にあったということを非常に誇りに思いますし、今現在の東海村も非常に誇りに思っています。そういうことから、東海村としてきちんとそういう東海第二の安全を確認して、そして原子力安全規制庁とともに、きちんと確認すると、そして東海第二を再稼働させると。そうすることによって、やはり今、世界の冠たる東海村ですから、世界からも、日本中からもやはり原子力の東海村はさすがだなという声をいただきたいと思っています。

皆さんの意見をきちんと我々は受けとめまして、安全対策についてきちんとご説明させていただきたいと思っています。どうか村議会におきましては、東海村の今後の将来をきちんと見据えて頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、最後尾の帽子かぶった方。

○ササキ 百塚に住んでおりますササキと申します。

先ほどから永遠に交わらない平行線の真ん中に座っているような感じで聞いているんですけれども、ちょっと中ほどから意見を言わせてもらいたいと思います。

我が家から原発までは恐らく3キロぐらいだと思います。一朝事あれば、大変なことになります。したがいまして、非常に怖いんです。ただ、どれぐらい怖いのかというのは、今度の事故で東海第二原発がどれくらいやられたのかということをちゃんと検証してみないとダメだと思うんです。ただ、それは第二原発だけではなくて生き残った東北電力の女川、福島第二、これを比較しまして、できるものなら電気を通して、水を通して、蒸気を通して、かなりのレベルまでシミュレーションをやって、どこの装置が一番安全だったかということを検証した上で、東海第二原発がどこに位置するかということを決めて、使うか使わないかということを考えるべきだと思います。もし一番危なかったら、これほどいいサンプルはありませんから、徹底的に解析して、次の段階に伝えるべきだと思います。

もう一つ、私は原発とは関係のない製造会社で40年間技術屋として働いてきました。技術の進歩というのは1件の事故でやめるようなことでは進歩はあり得ないと思います。それは被害は大変でした。それは心からお悔やみ申し上げますけれども、やはりその人たちに対しては何らかの補償をやって、技術というものをどう育していくかということを考える必要があると思います。その技術の先に経済の問題があると。経済の問題を抜きにして我々の生活がなり得るかと。それは絶対に成り立ちません。

今の日本、かつては日本で必要なものは衣食住と言われましたけれども、今の時代は恐らくエネルギー、水、食、家なんていうのはいくらでもあると、住は人口が減るんだから、そんなに少ないだろうと。したがいまして、このエネルギー問題というのをあっさりと結論を出すのは間違いだと思います。やはりいきなり廃炉にするんではなくて実験用として使う。使えるんだったら徹底的に使うと。そして経済に貢献させると、そういう態度が必要ではないかと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

時間が迫ってきましたので、はい、どうぞ。

○ 東海村の村松に住んでおります、原燃原子力の関係者でございます。

原子力に勤めている者としまして、福島のようなことが二度と起こってはいけませんで、継続的な改善を続けていくことが非常に今回の福島の教訓であると思っております。

一方で、エネルギーの受給率というのは日本は4%程度と言われております。ですから、先ほどちょっとご意見ありましたが、高い当然エネルギーで買っているような状況だと思います。今、日本の皆さん一般消費者にその負担、単価、要はかけないように努力されているんですが、いつまで続くのであろうかというような多角的な視点でも検討いただきたいと思います。

火力の話も出ましたが、確かに火力発電所、従前は30%と言われているものが、今、研究ベースですと50%近い高率となっております。たゆまない改善、有資源である化石燃料を有效地に使おうというそれぞれの産業界のトップの方々が、たゆまない努力をしているからの結果だと思います。

原子力に勤める者としましても、たゆまない改善、継続的な改善をすべきだと思っております。やはり議論の上では、独立した規制庁とか、そういう方々に本当に安全なのかということを見ていただいて、事業者も説明いたします。それから、独立した機関からも説明いただいて、十分理解いただくという、そういう前提が必要ではないかと思っております。

ということで、賛成か反対かということで今、結論を出すのは時期尚早ではないかと思います。

以上でございます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○フジイ 石神外宿のフジイと申します。

まず、東海第二原発の廃炉を一刻も早く願うものであります。

福島第一原発によって教えられた原発問題とは、放射能物質による被曝問題です。経済問題でもエネルギー問題でもありません。あらゆる人々が、この事故、この現実の姿を直視しないといけない、そういう時代。そして、ここ東海村も汚染された土地なのでありますね。放射性物質が降り注いだ地の人々の生きることを奪い、人々を分断し、未来世代にまで残す重大な罪を残し、その重さに震えます。子供を抱きながら逃げ惑い、健康不安におののき、ふるさとを捨てさせ、社会差別をつくり出してきた存在、それが原発でした。たかが電気、本当は核兵器なのか、のためにこれだけの惨事を生み出してしまいました。無責任で、だらしない国の象徴として残されていく放射性廃棄物、核のごみを過疎地に押しつけようという傲慢さと差別主義に心が痛みます。

昨年は高レベルの廃棄物をモンゴルにまで持っていくという破廉恥な話がありましたが、

とても恥ずかしいことです。

また、原発は事故がなくても一生懸命仕事をすればするほど被曝量が上がり、命を削ることになる。被曝者をつくり続いていることを教えていたのですね。被曝者は、広島・長崎では終わっていません。一刻も早く原発を廃止しなければなりません。私たちの思い描く豊かな社会、その夢見た果てに被曝の悲しみだけが人々と築かれてしまいました。地方は電気や原発が欲しいのではありません。地方で生きていく仕事、雇用が欲しいだけなんでしょう。

改めて、あの3月11日から水素爆発、給水弁が故障し、放射性物質の放出を繰り返した恐ろしい日々を私は決して忘れません。放射能の恐怖に震え、逃げ惑い、泣きながら子供を抱き締めた娘もお母さんやお父さんがいたことを忘れません。「原発がなければ」と談笑して命を絶った酪農者が、体調を奪われた農夫が、「海を返せ」と叫ぶ漁師がいたことを私は決して忘れない。被曝覚悟の労働現場に向かう朝、家族と涙を流しながら別れる、この後ろ姿を忘れない。命を削る仕事に被曝線量の引き上げを許す、この国のありようを許せない。戦争中でさえ子供たちを集団疎開させたのに、この放射線高線量下に子供たちを閉じ込める、この国の指導者や専門家、リーダーになる自治体の長、議員たちを許せない。

今ふるさとに帰れず、被曝を生み出すこの現実、つまり原発を告発し、抗議する、そういうことが今、私たちに求められているのではないかなということを切に思う次第です。

○ 豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

長時間にわたりまして、皆さんのご意見を伺わせていただきました。時間が迫ってまいりましたので、この辺でまとめさせていただきたいというふうに思っております。

本日は、東海に在住の方々、東海に勤務する方々37名の方のご意見を伺わせていただきました。大変貴重な意見を伺わせていただいたと思っております。

短時間で十分にご意見が伝えられない方もおられたかと思いますが、ホームページなどで10月31日までご意見を募集しております。どうぞご利用いただきたいと思います。

○ ちょっと意見なんです。

○ 豊島寛一 委員長 はい。

○ 私もホームページに書いたんですが、こういう難しい問題なのに400字制限というのは、ちょっといかがなものかと思うんです。確かにずるずる書かれたら、読むのは大変だというのはわかるんですけども、もう少しこの辺は検討願えませんでしょうか。

○ 豊島寛一 委員長 なるほどね、400字、そうですね、こちら集計のほうも大変だというところでございますので……。

○ ただ、賛成、反対とかの数を数えるだけになって、意見を聞くあれじゃないんじ
やないと思うんですよ。

○ 豊島寛一 委員長 そうですね、意見をもっと書きたい方はおられると思いますよね。その
辺ご了承いただければというふうに、本当に恐縮です。

○ 紙でも出してもいいというのと村外の人もオーケーだというのははっきり言って
ください。

○ 豊島寛一 委員長 紙ですか。紙のほうは各コミセンと議会事務局のほうに備えつけてござ
います。こちらのほうも400字以内ということでございますけれども……。

○ 村外でもいい。

○ 豊島寛一 委員長 村外もホームページ等も村外からたくさんいっておりますので、この件
については村内外関係はございません。村外の方もぜひお願ひしたいというふうに思ってお
ります。ぜひコミセン等にも備えつけてあります。事務局にも備えつけてありますので、よ
ろしくお願ひしたいと思います。それは10月31日までの意見募集です。

本日いただいたご意見のほうでございますが、ホームページの意見収集とあわせまして、
意見のみホームページ上で公開をさせていただきたいと思います。お名前等は割愛させてい
ただくということでございますので、ぜひともホームページのほうもごらんいただければと
思います。個人情報等もございますので、意見だけ載せさせていただきます。

次回は10月28日日曜日、時間は1時30分より、この会場でございます。第2回目の意見
聴取会を予定してございます。できるだけ多くの方々の意見を伺いたいと思いますので、第
2回ですね、本日お話しいただけなかった方も、ぜひご意見をお伺いしたいなと思いますの
で、ホームページ、また意見募集のほうに合わせまして、28日、大勢の皆さん方のご参加を
お待ちしております。

本日は意見聴取会、これで終了させていただきます。大変ご協力ありがとうございました。

○ すみません、この後、特別委員会としては意見聴取をまとめられて、どのように
お進めになられる予定ですか。

○ 豊島寛一 委員長 今日と28日に意見聴取ということでまとめさせていただきまして、ホー
ムページ等も10月31日までということでございますので……。

○ その後。

○ 豊島寛一 委員長 その後、集約をいたします。できれば特別委員会としては11月中旬以降
になろうかと思いますが、委員会を開催する予定で私のほうは考えておりますが、まだはっ

きりしたことはございませんけれども、できれば12月の議会に採決に持つていければなというふうに考えてございます。意見集約がどのようになりますか、まだ判断材料見つかっていませんけれども、流れとしては11月中旬以降に特別委員会、原子力問題調査特別委員会を開催したいなど私自身は思っております。その場で採決ができるかどうかということは、これまた難しい面もあるうかと思います。ご承知のように議会のほうは賛否両論拮抗しているという状態でございますので、議会としては判断なかなか難しい。今日、また28日、またホームページ等を参考にしていただきさせていただいて、判断の材料にさせていただければなと思っております。

○ 年内にはご判断されるということですか。

○ 豊島寛一 委員長 年内には、私としては判断したいなとは思っていますけれども、委員会としてどのようになるかということになると、ここで返答はできませんけれども、私としては皆さんのご意見をいただいた以上、12月にはぜひとも上程したいなと、このように考えております。

はい、どうぞ。

○ 先ほどのホームページは、村内外の人も意見入れるという話なんですけれども、九州とか北海道から来るんだってインターネット上だったらあり得るわけですね。そういうものも議会として、意見として取り入れるということですか。この意見を聞くという、要は住民までも、東海村としての意見というよりも、ほかから入ってくる、県からも来るわけでしょう。

○ 豊島寛一 委員長 ありますね。

○ 多分あると思うんです。

○ 豊島寛一 委員長 全国から来ますね。

○ それはこの中に意見として入れるという話なんですか。

○ 豊島寛一 委員長 もちろん周辺住民の意見も取り入れなくちゃなりませんので、それは入るというふうに、判断の材料の1つになりますので、ですから、村内に限らず、ホームページですから全国から来るだろうというふうに思いますので、原発全体に対しての考え方はそれから読み取れるかなというふうに思っているところです。

○ 吉田充宏 委員 委員長、すみません。片づける時間帯があるので、進行。

○ 今インターネットで県外だとか全国から、要するにそういう意見をもらうというのは、ここの原特委の趣旨と何かおかしいんじゃないんですか。要するに、今回だって東海

村だけの人の意見を聞こうとしたんでしょう。

○豊島寛一 委員長 今回の意見聴取はそうです。

○ そのインターネットのやつも参考にするというのは、全国の意見を聞いて何を、どうするんですか。

○豊島寛一 委員長 いや、周りの、今お話をあったように周辺自治体の、東海ばかりじゃない、判断材料はね……。

○ 周辺自治体なら自治体とやればいいのに……。

○豊島寛一 委員長 ホームページですから……。

○ 全国から意見もらうというのは何かおかしいんじゃない。

○豊島寛一 委員長 いや、おかしい……。

[発言する者あり]

○豊島寛一 委員長 意見もいろいろあると思いますので、参考にさせていただくということ
でございますので、時間も経過しましたので、この辺で閉じさせていただきたいと思います。
最後までご協力まことにありがとうございました。お疲れさまでした。 (拍手)

閉会 午後20時50分